

わたしの旅

「ふるさと旅行割引」を利用して

贅沢な冬の旅

村上洋平

昨年秋、毎年卓球合宿している新潟県津南のホテルから電話があり、予約済みの宿泊費が半額になりますといわれ驚きました。卓球仲間は「大宴会もできるぞ」と大喜びです。

何でも地域振興助成金による「ふるさと旅行割引」が適用されるとのことでした。個人でも葉書で申し込み、うまく当選すると新潟県内のホテル、旅館代が半額になるとのことです。

9月から翌年1月まで各月1億円で計5億円が予算化されるとのことで、チャンス到来とばかり応募しました。しかも、1泊最大2万円まで補助で連泊も可ということです。

結果3通が当選となり、あわてて身分不相応なりッチな旅行計画を立てました。

11月上旬にかねて撮影に行きたかった、棚田で有名な十日町の松代温泉の木造3階建重文級の凌雲閣に2泊予約しました。日の出に赤く染まる棚田の写真もばっちり撮れました。

宿のオーナーはキノコ採りの名人とかで10種以上のキノコ鍋は最高の味でした。4駆の愛車でゆっくり紅葉の田舎道をドライブするのも大好きなので、清津峡にも行きました。

第2弾は、12月下旬に妙高高原にあるホテルオークラ系の赤倉観光ホテルです。当地方随一のリゾートホテルは年間90パーセントの宿泊率とかで、予約がとれにくいようですが、キャンセルが出て、連泊予約が取れてラッキーでした。

さすがに洗練された施設とサービスは抜群で、楽しい食事も「おいしい、最高」でした。ただ、せっかくスノシューを持参したのに積雪がほとんどなく、空振りでした。

若い頃何回か山仲間とスキーで通いましたが、この時期に豪雪が売り物の赤倉が雪不足で滑ることができないとは、やはり暖冬化の影響で心配です。仕方がないので、高田や直江津海岸にドライブして、おいしい寿司や蕎麦を食べ歩きました。

翌年1月には、瓢湖の白鳥を撮影するのを目的に月岡温泉の白玉の湯、泉慶に泊まりました。出発前夜、

気圧の接近で大雪注意報が出ていましたので、急遽、ドライブをやめて新幹線で行きました。これは正解で、新潟駅から白新線に乗り換えましたが、前夜からの積雪のためタイヤが乱れ大幅に遅れました。3時間遅れで宿に入ることができましたが、途中の道路脇の田んぼにスリップした車が2台横転していました。恐らく猛吹雪で視界を遮られたのでしょうか、幾ら4輪駆動車でもホワイトアウトには勝てません。

翌日の瓢湖の白鳥、そして雁の群れの多さにはびっくりでした。数千羽はいるとのことでしたが、湖を埋め尽くし、鳥だらけです。周囲の田んぼも積雪で餌がとれず集まってきたのでしょうか。飼育係のおじさんが籠から餌をまくと、壮絶な取り合いが始まりました。

3回も思わぬ贅沢な冬の旅をしました。でも、年齢を考えるとそろそろリーズナブルな旅の回数を減らしても、やはりいい宿でおいしいご馳走を食べるのも悪くないなあと思いました。

私は、北国への旅は冬に限ると前から思っております。雪降りしきる釧路湿原の中、黒煙を上げながらゆっくり走るSLの旅は、いまだ忘れられない旅です。客車のストーブでスルメを焼きながら地元乗客との団欒は楽しい限りです。

北海道などの北国は、雪の世界がやはり一番似合います。

